



体育の授業で教員から感染予防策の説明を受ける小樽商大1年生

対面授業7カ月ぶり

樽商大「孤独」解消へ科目1割で

小樽商科大は28日、後期授業を開始した。新型コロナウイルスの感染リスクを減らすため、前期に全科目で導入したオンライン授業を引き続き中心に掲げる一方、3密を回避し予防策を講じられる約1割の科目で対面授業も約7カ月ぶりに再開。大学生活を実感できず孤独を感じがちな新入生の希望に応えた形で、今後感染状況を見ながら拡大を検討する考え。

同大はコロナ禍で前期授業を全科目オンラインで実施し、対面授業は着休みの前

の2月上旬以来。ただ、道内外で感染が収束していないことを踏まえ、延べ286科目の後期授業の8割はオンラインで続け、対面は広い体育館で密集を避けられる体育や、少人数のゼミなど延べ24科目にとどめる。オンラインを基本としつつ随時対面も取り入れる「ハイブリッド授業」も延べ26科目開講。学生にはマスク着用や手洗いの徹底を呼びかける。

同大が後期授業に関して8月上旬に行ったアンケートでは、自由記述で答えた

1年生49人のうち73%、36人が対面授業を希望。理由として「オンラインでは友達がうまく作れず学生同士で交流したい」「1人暮らしだと孤独を感じる」などの回答があり、同大は遠

隔授業を好意的に受け止める学生もいるが、キャンパスに來れないストレスを緩和するには対面の授業が必要」（鈴木将史副学長）と判断した。

28日は体育館で体育の授

業の説明が行われ、31人が参加。1年の米沢輝将さん（16）は「人間関係の輪を広げるためにも対面授業が再開して良かった」と話した。（日野夏美）